

中国・内蒙古に行って来ました！

国際交流センター ユニットマネジャー 塩崎 泰子

9月7日に室蘭工業大学と交流協定を締結している内蒙古師範大学へ、内蒙古師範大学の60周年記念事業に出席するため岩佐副学長としくみ情報系領域の酒井先生の3人で行って来ました。内蒙古師範大学は、内蒙古自治区フフホト市（呼和浩特市）にあって、北京から飛行機ですと1時間半位で行くことができます。内蒙古自治区は、草原と砂漠がある118万平方キロ（北海道の14倍、人口は2千4百万人）のとても広い地域です。

空港には卒業生の満都拉（マンドウラ）先生が迎えに来てくれました。満都拉先生は、帰りの日の空港での見送りで、ずっと私達のお世話をしてくれました。また、内蒙古の大学の先生になった室蘭工大卒業生のみなさんも会いに来てくれました。謝謝！



写真1 刀削麵を作っているお母さん



写真2 有名なチンギス・ハーン



写真3. 60周年記念花火:火事になるかと心配するくらい近さと威力の花火でした。

ボリビア鉱山巡りー ウユニ塩湖のレアアースー

しくみ情報系領域 教授 板倉 賢一

南米のほぼ中央、アンデス山脈の稜線とブラジルに挟まれた内陸国ボリビアに行ってきました。9月下旬は、肌寒く乾燥した時期です。ボリビアは銀、鉛、亜鉛、錳の産地で、スペイン植民地時代には、多くの銀が採掘され銀貨として本国へ送られました。今でも多くの鉱山が操業している資源大国です。しかしながら、国民の生活水準（幸福水準ではない）はそれ程高くなく、各町は埃っぽく（時期のせいもある）、健康そうな野犬が至る所にいました。20数年前の中国のようでした。今回の旅の目的は、鉱山調査です。ラパスからポトシ、ウユニ、サンクリストバルの鉱山等を巡ってきました。いずれも、標高3600m以上です。ここでは、ウユニの話をする。ウユニ塩湖（四国よりやや狭い面積）は、人気の観光地です。純白の塩の平原を150km/hで何時間走っても、景色は変わりません。表面に薄く塩水があるときは、遠方の山が逆さに映し出され、非常に美しい景観です。この塩湖ですが、アンデス山脈（太古には海の底）から流れる川が毎年塩を運び、堆積してできました。従って塩には、年輪があります。

現在、この塩からレアアースであるリチウムを回収する国家プロジェクトが始まっています。COMIBOLを中心に、当初日本、韓国ほか複数の国がプロジェクトに関わっていました。現在は、ほとんどが撤退しました。なぜなら、ボリビア政府はリチウム開発の条件として燃料電池や自動社企業の誘致を抱き合わせたためです（地産地消）。JOGMECは、権益獲得のために技術者を滞在させ、地道な研究開発を行っていました。

因みに、ボリビアの自動車は圧倒的にトヨタの中古車です。それも日本語の会社名等が残ったままです（更にその上から中国語が書かれているものもあります）。

ボリビアは、ラマとアルパカ、そして鉱山（高山）の国です。滞在中に鉱山業界の対立でストライキがありました。信じられないことに鉱山労働者が、主要な町を封鎖するのです。2日の封鎖で、政府系の鉱山が妥協して解決しました。この国では、鉱山業界はこれほど力のある産業なのです。もし、このストライキが伸びていたら、後期の授業に間に合わず、休講の山を築いてしまうところでした。鉱山の神様に、感謝。そしてボリビアの発展を！

COMIBOL (Corporación Minera de Bolivia) : ボリビア国営の資源企業

JOGMEC (Japan Oil, Gas and Metals National Corporation) : 独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構



写真1. リチウム回収沈殿池



写真2. ウユニ塩湖と筆者

公募情報

ヨーロッパ語学研修

期間:平成25年3月頃(春休み中)
研修先:ドイツ、フランス、チェコ
参加費用:約27万円(航空券、宿泊費込み)
研修内容:語学学習、ツウィッカウ工業大学訪問
学生交流、博物館の見学
募集人員:15名程度
募集期間:平成24年12月頃

台湾・大葉大学短期研修

期間:平成25年3月頃(春休み中)
研修先:大葉大学
参加費:約11万円(航空券、宿泊費込み)
研修内容:中国語研修、日本語学科の学生との交流
台中市内の日系企業見学
募集人員:4名程度(中国語履修者を優先)
募集期間:平成24年12月頃

中国・華中科技大学短期研修

期間:平成25年3月頃(春休み中)
研修先:華中科技大学
参加費:15万円程度(航空券、宿泊費込み)
研修内容:中国語研修、中国文化についての講義、学生交流
募集人員:8名程度(中国語履修者)
募集期間:平成24年12月頃

佐藤矩康博士記念奨学賞

国際活動を行う学生を支援するために設立された奨学賞です。
募集期間:平成24年11月頃
対象者:国際インターンシップ、国際学会等へ参加する学生
選抜方法:英語による面接試験を行って、受賞者を決定します。
賞金:渡航費として10万円
その他:受賞者は、帰国後に報告書を提出していただけます。

それぞれ開催時期が近くなりましたら、掲示板等でお知らせします。
興味のある方は、国際交流センターまでお問い合わせください。

室蘭工業大学

国際交流センター News

第3号

From Center for International Relations
of Muroran Institute of Technology

発行元: 国際交流センター、
国際交流クラブ

Contents

中国・華中科技大学訪問記
RMIT研修 P1
海外体験記..... P2, 3
中国・内蒙古師範大学訪問記
ボリビア鉱山巡り
公募情報..... P4

オーストラリアRMIT語学研修

ー「相互交流プログラム」で共に学ぶ！体験する！成長する！ー

オーストラリア「RMIT語学研修」について知っていますか？

本学と学術交流協定を結んでいるオーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学（以下RMIT）と共同で実施する学生相互交流プログラムで、毎年お互いの大学を訪問し語学研修と学生交流を行っています。本学で実施される海外短期研修はいくつかありますが、「RMIT語学研修」は学生が相互に訪問・交流できる唯一の研修で、同時に英語圏への研修であることから、最も人気の高い研修のひとつとなっています。

「RMIT語学研修」から得られるものは？

平成24年度は8月22日から9月7日の間、本学の学生10名が2名の引率教職員と共にメルボルンを訪れ、オーストラリア人の家庭にホームステイしながら、英語を母語としない学生に対する英語教育を専門に行う機関で英語を学び、同時にRMITで日本語を学ぶ学生や日本語・日本文化に関心の高い「ジャパンクラブ」の学生達と交流を行いました。研修中盤には工大生とRMIT学生による2泊3日の合宿が行われ、両大学の学生が寝食を共にする中で、外国語でコミュニケーションを行うことの面白さと喜びを体験的に学び取る貴重な機会を得ました。平成24年11月1日から11月12日にはRMITの学生7名が引率教員と共に本学を訪れ、日本語研修を行いました。オーストラリアで行われた英語研修と同様に、本学の学生がチューターとなってRMIT学生の室蘭での研修をサポートし、語学習得や異文化理解など、相互交流による大きな成果が得られました。

「RMIT語学研修」についてもっと詳しく知るには？

本プログラムは、例年英語研修（派遣）が8月、日本語研修（受入）は11月に実施されており、関心のある方は国際交流センターへお問い合わせください。

MuroranIT and its partner university Royal Melbourne Institute of Technology (RMIT) exchanged their students through study tour programs. 10 MuroranIT students visited RMIT in September, 2012. In return, 7 RMIT students visited MuroranIT in following month. Students from both institutes had great opportunities learning languages and exploring different cultures. Please visit Center for International Relations for further information.

中国・華中科技大学訪問記

国際交流センター 准教授 山路 奈保子

10月6日に中国・武漢市にある本学の協定校、華中科技大学の創立60周年式典に参加しました。

中国の大学はたいいていそうですが、華中科技大学も広大なキャンパス内に学生・教員とその家族が居住し、室蘭市なみの人口を擁しています。キャンパス内には生活に必要な商業施設や娯楽施設はもちろん付属の保育所・幼稚園から高校まであり、「大学キャンパス内だけで一生を終えることも、いちおう可能」だそうです。武漢は夏の酷暑で有名なのですが、大学キャンパスは非常に緑豊かで、写真のような池もあちこちにあり、過ごしやすそうな環境です。

武漢滞在中は華中科技大学の日本語学科の学生がつきっきりで案内してくれました。日本に長期滞在した経験もないのに驚くほど流暢な日本語、そして新しい知識を得るたびに丹念にメモをとる熱心さにおおいに感心しました。

北京や上海、西安などに比べると武漢は観光客のなかなかな行かないところですが、3500年前の殷の時代からの長い長い歴史があり、近代では辛亥革命の火の手が最初に上がった都市としても知られています。また、このあたりの料理は、素材の面でも味の面でも中国各地の個性的な料理の「いいとこ取り」なのだそうで、なじみやすく飽きの来ない味で、体にもよさそうです。

3月にはこの華中科技大学での中国語・中国文化研修を実施します（国際交流科目「海外研修」）。工大生の皆さん、ぜひご参加を！



写真1. 修了証書を片手に記念撮影



写真2. RMITでの英語授業の様子



写真3. バイリンガルキャンプでの交流



写真1. 華中科技大学教員と筆者

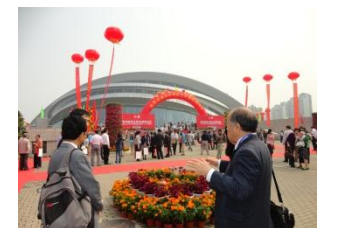


写真2. 創立60周年式典の会場

～海外体験記～

日独学生青年リーダー交流事業 —ドイツ(ベルリン、ドレスデン)にて— 建築社会基盤系学科3年 沼田慶幸

この事業は文部科学省委託事業であったため、研修の交通費からドイツ滞在費まですべて込みで12万円という格安事業でした。2週間のドイツ派遣前に小論文審査やテスト期間中に2度も東京で事前研修があったりと、苦労はありましたが、国際交流センターの方々や様々な人の支えがあり参加することができました。

参加者は東京大学、立命館大学、同志社大学など、全国の学生20名が参加しました。事業テーマは日独の社会貢献活動を行っている青年リーダー同士が両国で意見交換や体験活動を行い、若者の社会参画の意義や姿勢、リーダーシップについて考えを深めるという内容です。

特にドイツの歴史、政治、教育、ボランティア活動、社会問題等多くのことを学びその知識を踏まえて日本の実情と比較し、様々なテーマでドイツ団員とのディスカッションを行うというのがメインのプログラムでした。とにかく話し合う時間が多く、自由時間でさえも、この事業をよくするために毎日話し合いました。そして全員がそれを意識して行動していました。言葉や行動で互いが互いを刺激し合い、個人やチームが向上していく姿がとても感動的でした。ただ、海外を見て回るだけでは決して得られないものが本事業にはありました。



写真1. ドイツの学生との研修風景

Japan-Germany Youth Leadership Study Tour in Berlin and Dresden Toshiyuki Numata Department of Civil Engineering and Architecture

I was very lucky to participate in this study tour founded by MEXT.* Indeed, each participant who passes the screening with essay and attends 2-time training seminars in Tokyo covers only 120 thousand yen as an admission fee. There were group of 20 students enrolled from Japan and Germany who were mostly from highly competitive universities including Tokyo University. Youth representatives from the two countries exchanged ideas on social participation and leadership through discussion and activities while Japanese students learned history, politics, education systems, volunteer work and social issues in Germany. It was very impressive to see all the participants cultivating their ability both in terms of individual and as a group through verbal and behavioral interaction which I believe I could not acquire just by traveling overseas.

*Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

オーストラリアスタディツアー —ロイヤルメルボルン工科大学(RMIT)—

情報電子工学系学科3年 前田貢一

以前から海外にいったみたかったので、今年の夏季長期休暇のオーストラリアの語学研修に参加しました。個人的な旅行でなくこの研修を考えた理由としては、研修中にホームステイができることや、現地の学生との交流ができることが魅力的であったからです。研修の中で最も記憶に残っているのは現地の学生と行った2泊3日の合宿です。合宿では多くのイベントがあったのでそれを通して友人を作りました。

滞在したメルボルンの街並みは、さまざまな文化や、古い建物と新しい建物が混ざっていて、街中を歩いているだけでとても楽しめたことが印象に残っています。当然現地では日常生活でも英語でコミュニケーションをしなければいけない環境だったので、不安もありましたが、現地出会った様々な人とコミュニケーションをするのはそれ以上の楽しさであったと思います。失敗も多くなりましたが終わってみるとそれも日本では体験できない貴重な体験の1つです。

海外に行ってみたくい人や、外国の友人を作りたい人は参加してみませんか？



写真1. RMIT学生との合宿を終えて

RMIT Study Tour in Melbourne, Australia Koichi Maeda Department of Information and Electronic Engineering

I participated in language study tour at RMIT, Australia because I have always wanted to visit foreign countries and the tour seems to have a lot of benefits such as homestay and interaction with students of RMIT rather than traveling alone. What I remember most is about Language Exchanging Camp with RMIT students. I am glad to have made many friends through various activities during the camp. As of City of Melbourne, I was impressed to see how historical buildings and modern buildings coexist side by side in a same block. I must admit that I was afraid of the fact that I needed to make communication fully in English, though I found out it was more exciting to reach out to people there and enjoy having conversation. To conclude, I would like to encourage other students who wish to go abroad and make friends to join the RMIT study tour for the next year!

韓国・釜慶大学サマースクール 機械航空創造系学科4年 須藤 正人

2012年8月に韓国の釜山にある釜慶(プギョン)大学のサマースクールに参加しました。参加した理由は、アジア圏の文化を体験し勉強したいと思ったからです。プログラム内容は、寮で韓国人パディと約2週間生活をしながら、韓国語講座・文化体験(サムルノリ・テコンドー・韓国料理実習)・グループ活動などを行いました。体験学習が多く、韓国語ができない僕でも充実した日々を過ごすことができました。また、パディとの寮生活を通し、習慣や文化の違いを実感できました。自由時間には、現地の大学生などとの交流をしながら釜山の街を堪能できました。本学が初参加のプログラムで、多くの不安がありました。国際交流センター職員の方々の優しく丁寧な対応のおかげで、無事に終えることができました。日本にいただけではわからないことがたくさんあるはず。実際に自分の目で確かめに行ってみてください！次に留学体験記を書くのはあなたです！！



写真1. テコンドー体験学習

韓国・ソウル科学技術大学サマースクール 建築社会基盤系専攻 山下 輝彦

私はこの夏、ソウル科学技術大学が企画しているソウルサマースクール(以下STISS)に参加しました。他に、金沢工業大学、岐阜大学、台湾、中国、インドネシア、アメリカ、イギリスから参加するメンバーがいました。約2週間、私はこの多国籍のメンバーと共に、韓国語やテコンドーなどの授業を受けました。特に韓国音楽のソー先生はとても明るくて、踊ったりK-POPを歌ったりする授業は最高に楽しかったです。また、ソウル科学技術大学の学生がボランティアとして、一緒に民族衣装体験や民族村見学などを行いました。日本語が話せるボランティアに助けってもらいながら、観光と交流を全力で楽しむことができました。さらに韓国の食べ物はとても美味しく、トッポギ、サムギョプサル、冷麺、チヂミ、ビビンバなどを辛い辛いといいながら皆で食べ、毎日がパーティのようでした。これからもSTISSメンバーとのつながりを一生大切にしていきたいです。



写真1. オープニングセレモニーでの集合写真

Pukyong Summer School

Masato Suto Master Candidate of Division of Aerospace Engineering



写真2. 正門にて記念撮影

I participated in the Summer School of Pukyong National University, Korea in August, 2012 for the purpose of experiencing culture of Asian countries. I spent whole 2 weeks studying Korean language and experiencing Korean culture, such as taekwon do and Korean dish cooking, while sharing life at the university's dormitory with Korean tutor students called "Buddy".

Actually, this was the first time for Murooran IT students to participate the summer school of Pukyong University, so I should say I was worried in the beginning. However, it turned out to be a great experience with the kind assistance of International Center staff. I believe there are so much things you never learn if you stay only within Japan. I do hope one of you will join the summer school for the next year and eventually you will be the one who will write a study abroad report for the next generation!!

Seoul Summer School at Soel National University of Science and Technology (Seoul Tech)

Teruhiko Yamashita Master candidate of Division of Civil Engineering and Architecture

This summer, I participated in Seoul Summer School (STISS) which gathered students from Kanazawa and Gifu University from Japan as well as from various countries of the world such as Taiwan, China, Indonesia, USA and UK. I spent 2 weeks learning Korean language and Culture through activities such as practicing taekwon do. I especially enjoyed Korean music class of Prof. Saw with lots of singing and dancing to K-pop music. I enjoyed eating spicy Korean food everyday for example toppogi, samgyopusal, cold noodle, puchinge and bibinbap. Eating together with students of different countries were as if having a big party for whole 2 weeks.

Soul Tech students volunteers assisted foreign students to facilitate communication in Korean and to visit places such as Korean Traditional Village. I thank for all the volunteers for their kind support and I hope to keep in touch with them for along time.

